

塩竈市子ども・子育て会議（令和3年度第1回）議事概要 報告書

1. 会議名	塩竈市子ども・子育て会議（令和3年度第1回）
2. 日時	令和3年8月3日（火） 18:30 ～ 19:45
3. 場所	塩竈市北側委員会室（本庁舎3階）
4. 出席者	<p><子ども・子育て会議委員> 8名</p> <p><塩竈市> 6名 健康福祉部長、次長兼子育て支援課長、子育て支援課職員3名、学校教育課職員1名</p>

<議 事 概 要>

1. 開 会 司会（子育て支援課長補佐）
 2. 挨拶 部長から
 3. 議 事 議事前に資料確認後議事

(1) 報告事項

- ① 第2期のびのび塩竈っ子プラン（令和2年度）の進捗状況について
 - ・資料1を使用し、進捗状況を報告した。
- ② 教育・保育施設等の利用状況について
 - ・資料2を使用し、利用状況を報告した。
- ③ 子どもの生活に関する実態調査について
 - ・資料3、資料3-1及び資料3-2を使用し、子どもの生活に関する実態調査の調査結果について報告した。
- ④ 塩竈市子育て世代包括支援センターの開設について
 - ・資料4を使用し、「にこサポ」の運営内容について報告した。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について
 - ・資料5を使用し、新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について報告した。

4. そ の 他 次回会議日程は後日連絡
 5. 閉 会

<主なご意見等の内容>

◆報告事項

①第2期のびのび塩竈っ子プラン（令和2年度）の進捗状況について

②教育・保育施設等の利用状況について

③子どもの生活に関する実態調査について

④塩竈市子育て世代包括支援センターの開設について

⑤新型コロナウイルス感染症対策に関する子育て支援事業について

【議長】 それでは、今の報告を受けて委員の方からご質問、ご確認したいこと、ご意見があれば承りたいと思います。

【委員】 「第2期のびのび塩竈っ子プラン」の進捗状況というところで少しお聞きします。利用者数の実績値を見たときに令和元年度と令和2年度でずいぶん減少しているような気がしますが、これは最初の推計からずいぶんかけ離れた値となっているような印象です。具体的には、教育事業において633から519に減少しております。これについて、何か思い当たる理由などあれば教えてください。

【事務局】 明確な理由ではございませんが、徐々に子どもの数が減っているというのは理由の一つではないかと考えております。また、第2期のびのび塩竈っ子プランを作成した際のニーズ調査では、保育事業よりも教育事業を使いたいという回答が多かったため、今後幼稚園の利用が増えてくるだろうと予測しておりましたが、実際には保育事業の利用の方が増えておりました。今後利用者数の動きについては、見守っていきたいと考えております。

【委員】 その下の地域子ども・子育て支援事業というところで、例えば地域子育て支援拠点事業の利用者も減少しております。これはコロナの影響で、やはり出歩きづらかったのかなというのはイメージがし易いのですが、教育事業においてこんなに利用する人が減るといったのは何かあったのではないかと思います。ありがとうございます。

【事務局】 補足しますと、塩竈第二中央幼稚園さんで92名の減になってございました。これが大きな増減となっております。

【委員】 ありがとうございます。

【議長】 今回の件に関して、その他にございますか。それでは私から。「2.地域子ども・子育て支援事業」の中で放課後児童クラブでは逆に増えております。増えたというのはサービスを提供する側としては嬉しい部分であると思いますが、その増えた背景として市で分析しているところはありますか。

【事務局】 増加の理由としては、新1年生と新2年生の両方で利用児童数が増えているためと分析しております。また、平成27年度までは小学3年生までの利用だったところを、小学6年生まで利用を拡大しており、そこから徐々に高学年のお子さんの利用も増えていることが要因の一つとして挙げられます。加えて、昨今の不審者等の報道を受け、ご自宅での留守番が安心してできない環境というところで、お子様を放課後児童クラブに預けて安心したいという親御さんのニーズも増加傾向にあるのではないかと感じております。

【議長】 ありがとうございます。

【委員】戻ってしまうのですが、資料1の「(2)保育事業」のところで伺います。推計と実績を比較したときに、特に0歳児では半分程になっておりますが、これはコロナの影響による出生率の低下が招いた結果なのか、それとも、コロナの影響による就業率の低下が招いた結果なのか。分かる範囲で構いませんので、ご説明をお願いします。

【事務局】第2期のびのび塩竈っ子プランは、先ほどもお話ししましたとおりニーズ調査を基につくっているものになります。ニーズ調査において、0歳児の利用ニーズが多かったのですが、この推計値にて見込んでいたところですが、実際はその半分程の利用実績にとどまってしまっているということになります。また、令和3年度につきましても、4月1日現在の0歳児の児童数は39人となっております、令和2年度と同程度となっております。その後、徐々に増えてはきておりますが、6月1日現在で45人と、100人を切っている状況が続いております。他市町村からの話を伺っておりますと、やはりコロナの影響でお母さんたちが働くのを控える傾向にあり0歳児を中心として利用が減っているという話がありますので、本市においてもその傾向にあるのではないかと考えております。また一方で、本市においては、保育士を確保できないことから0歳児の受け入れ数が減ってしまっているということもございます。その点につきましては、今後十分に保育士を確保しながら受け入れを増やしていきたいと考えております。

【議長】はい、ありがとうございます。よろしいですか。他にございますか。

【委員】子どもの生活に関する実態調査について伺いたします。事前に郵送していただいた会議資料ではまだ冊子ではなかったのですが、直すことが出来るのかなと思っておりましたが、今日配布した資料を見ますと、冊子として綴じられております。これ以上直すのは難しいということでしょうか。出来上がっているということでしょうか。また、この抜粋版の方は、どなたにどういう形で配ることを想定されているのでしょうか。こちらはまだ直すことが可能なのでしょうか。

【事務局】この抜粋版については、令和3年5月の民生常任委員会というところでこの内容にて報告しておりますが、大きな変更でなく、軽微な修正であれば可能と思われれます。

【委員】わかりました。ありがとうございます。少し気になりましたのが、抜粋版の1ページ目のところで、「2 調査対象」の「保護者調査」に「市内の満18歳未満の子どもを持つ保護者および市内の小学5年生児童または中学2年生生徒をもつ保護者（無作為抽出1,000人）」と記載がありますが、この「（無作為抽出1,000人）」はどちらに掛かっているのでしょうか。同じページの下にある「5 回収状況」を見ると、「（無作為抽出1,000人）」というのは、市内の満18歳未満の子どもを持つ保護者についてのもので、それ以外の小学5年生と中学2年生は全数調査という認識でよろしいでしょうか。

【事務局】はい、おっしゃるとおりです。無作為抽出の1,000人は市内の満18歳未満の子どもを持つ保護者に掛かっており、それ以外の学校配布の方々については全員という形で調査を行っております。

【委員】 こちらの表記は誤解を招くかなと思いますので、修正できるのであれば表現を修正してもらった方がよろしいのかなと思った部分です。あとは、データの読み取り方について意見を述べさせていただきます。先ほど、資料の 3 を使いながら子どもがどういう風に貧困世帯と非貧困世帯とで違っているのかというのは詳しく説明をいただきましたが、最初にこの資料を拝見したときに、結果の記述において、このデータで言いたいことはそういうことなのかなという風に思ってしまったところがあります。例えば、抜粋版の 11 ページの「子どもの学年別」の記述です。「子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生、中学生ともに貧困世帯で”わからない”の割合が高くなっています。」と、図から読み取れることを文章で表現しているのだらうと思います。それはそのとおりだと思いますが、私はむしろ小学 5 年生と中学 2 年生を比べたときに差が拡大しているというところの方が目に留まりました。小学 5 年生のうちの貧困世帯と非貧困世帯で、「わかる」「わからない」という大きな括りで見たとときの差が、中学 2 年生になると広がっているように伺えます。データを読み取った後、そこからどのような方策を講じていくのかを考えたときに、何を読み取るのかというのは大事かと思われまます。私とその部分を読み取るのであれば、そのように読み取るかと思いましたので、意見として述べさせていただきます。以上です。

【議長】 ありがとうございます。今、委員からご意見いただいたことはおそらく 13 ページ辺りにも言えることなのかなと思われまます。ここでのグラフは学年で分けた後に貧困線に分けておりましたが、例えば、これを貧困線に分けた後に学年で分けたとして見てみますと、貧困世帯においては、「高校まで」というお子さんの割合が中学 2 年生になると拡大しております。そういった分析もできるものと思われまます。冊子は冊子として完成したものとしたとしても、データの読み取りという点では、この先も各委員のご助言をいただきながら、一考する余地があると思われまます。私からも一つ意見ですが、前回と比べて貧困世帯と非貧困世帯の間で差が出ている箇所をどうとらえていくのかということが大事と考えておりましたので、先ほどそういった視点でご説明いただき、よかったのではないかなと思っておりました。また、26 ページの誰に相談したり話したりできるかという設問において、貧困世帯では、きょうだいや祖父母・親戚、親など身内の方に相談している子が多いのに対し、非貧困世帯になると、学校の先生や学校の友達、学校外などが多くなっており、相談する対象が異なってきていると見ておりました。加えて、数値はそれほど高くないようでしたが、誰にも相談できない相談したくないという方が 6.7%もいるようでしたので、心配しております。他の項目の割合に比べれば低いですが、深刻な数字なのかなと捉えております。このようなお子さんが増えてきていると、先ほども報告ありましたが、例えば児童クラブなどにどう繋げていくか、繋がっているのか、繋がった上で相談したくないのか、そのあたりは今後も見守っていかなければならない大事なところかと感じております。最後に、全体として、貧困世帯と非貧困世帯との間で経済的な負担の差というのが顕著に出たのではないかと考えております。そういう分け方をしているので当然だとは思われまます、ただ一方でやはり、貧困世帯の方は、学校教育の中でかかる経費

に負担を感じているというところも、結果から見えてきたのではないのかなと思いました。他にはいかがでしょうか。

【議長】では、私の方から。ぜひ「にこサポ」を盛り上げていただけるといいなという風に思います。というのも、お子さんが生まれる前のお父さんお母さんのサポートをするっていうことは、生まれた後子育てに対して不安がある時期に、保健師さんたちとの関係性があるということだと思われます。相談したいと思う方はたくさんいらっしゃると思いますが、初めましての状態でも相談するっていうのはなかなか難しいことと思われます。ですので、妊娠初期から顔が見える、名前が分かっている関係性であれば、そういった相談を支援に繋げることができ、例えば虐待の数字が下がるなど、そういったことにも寄与してくるかなと思います。「にこサポ」の仕組み自体は整っており、すごく良いと感じますので、関係性のところを意識して取り組んでいただけたらありがたいことだと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、お父さんお母さんの相談手段として、アプリなど活用し、書き込み式の相談窓口といったものを用意できれば、より「にこサポ」が機能し、充実するのかなと思います。そういった関係性というのは、塩竈市の人口規模だから逆に出来ることでもあると思います。仮に、仙台市でやろうとしたら大変なことになるのではないかと。本塩釜駅前にワンストップの施設があるというところに意味があるのではないかと感じておいます。他にはよろしいでしょうか。

◆その他

【議 長】 その他の議事として事務局の方からありましたらお願いいたします

【事務局】 議事の中で、その他項目は用意してございません。

【議 長】 それでは、その他特に無いようでしたら、以上をもちまして議事を終了させていただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

【事務局】 以上をもちまして令和 3 年度第 1 回塩竈市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。